

川崎市議会議員(麻生区選出、無所属)

月本たくや

レポート【第 53 号】

月本たくやレポート編集部

〒215-0024 川崎市麻生区白鳥 2-3-2 K コーポ白鳥 103

TEL : 044-986-6010 FAX : 044-330-1563 Email : mail@tsukimoto.info



学校ふるさと応援寄附金の活用を！

～ふるさと納税は、地方ではなく市内の学校へ～

✓ふるさと納税で 69 億円の流出見込み

これまで、市議会でふるさと納税対策について提案してきました。そもそも地方出身者が都市部で就職し、移住した先に納税するため、育ててもらった自治体に納税という形で返せないということから始まったのが、「ふるさと納税制度」です。泉佐野市の裁判の結果、返礼品争いはさらに加速になるものの、私は川崎市が返礼品を工夫すべきとは思いますが、ここで積極的な返礼品競争に参加すべきではないという考えは変わりません。

ふるさと納税は、他の自治体だけでなく、自分が住んでいる自治体に寄附した場合にも同様の控除が受けられる制度で、「納税先の選択」という観点で、流出抑制を考えるべきです。

市内へのふるさと納税メニューは、昨年度から「新型コロナウイルス感染症対策」のメニューが加わりましたが、道路、公園緑地、福祉、動物愛護など様々なメニューがあり、この項目を選択することが「納税先の選択」で市政への意思表示になるわけです。

ふるさと納税の寄附先を市立学校にする際は、学校名まで指定することができます。これを「学校ふるさと応援寄附金」と言いますが、その用途は学校の判断で使われますが、寄附者の承諾が得られれば、寄附者名や使途内容等が市のホームページに掲載されます。

年々、ふるさと納税による市税の市外流出が増えていますが、同時に市民サービスを削っているということになります。税金の使途への不満から市外への納税により意思表示される方もいらっしゃいますが、特定の使い道に選択するという方法の一つとして、子どもたちのために、「学校ふるさと応援寄附金」を検討して頂きたいと思います。

ある夫婦のふるさと納税トーク

イメージ



今年のふるさと納税、お肉かカニどっちがいいかな？

ふるさと納税で控除を受けると、川崎市の税収が減って、サービスが削られちゃうかもしれないよ。令和 3 年度で 69 億円だって。



でも、地方にふるさと納税すると、2,000 円の手数料で、お肉やカニがもらえるお得な制度だよ。

何言ってるの？お肉やカニよりも、子どもたちのためでしょ？
学校へのふるさと納税なら、学校や教育に使われ、市のホームページで使い道も公開されてるよ。



子どもたちのためにちゃんと使われているのなら、お肉やカニの誘惑に負けず、子どもたちのために、「**学校ふるさと応援寄附金**」だね。

学校ふるさと応援寄附金の使い道例



予算審査特別委員会質問(抜粋)

予算審査特別委員会での質問抜粋(下の説明。R3.3.8)

補正予算組替え動議の提案説明(右写真。R3.3.19 本会議)

※組替え動議内容:月本たくやレポート第 52 号をご参照下さい。



質問・答弁の結果ポイント

月本の提案である市内全体の緑地の管理方針の検討につながる「緑地の維持管理のあり方」を検討すること、健全な緑地をつくるための「計画的な伐採」等の管理の必要性も答弁され、踏み込んだ答弁になった。

建設緑政局長 答弁(要旨)

緑地保全と市民の利活用促進を図るために、計画的な伐採等の緑地管理も必要と考えており、区ごとの地域特性や緑地の特徴に応じた維持管理に向けたあり方を検討していく。

月本の提案

令和3年度の保全緑地整備のための調査で、緑地の立地や地形や樹木の生育状況を始め、緑地管理の課題を整理し、緑地と管理方針を示すべき。
・伐採、間伐などによる緑地を守る視点も必要。

課題

区によって緑被率が異なるのに予算額が変わらない。
5m以上の高木対策は对症下药的な対応。
・台風等での災害リスクがある。

**緑地管理計画
について**



質問・答弁の結果ポイント

質問を通じ、オンライン役員会を始めとした先進的な町内会等の取組を情報共有していくことになり、令和3年度に市が新たな補助制度を検討する上で、これまで考えていなかった新しい生活様式に対応できるものに検討する答弁になった。



市民文化局長 答弁(要旨)

町内会・自治会等への新たな補助制度の創設に向けた調整を進めているので、新しい生活様式を踏まえた活動等も含め、関係局区と連携し、検討していく。

月本の提案

例えば、はるひ野町内会の役員会は、オンライン活用により、コロナ対策の上で、参加できる環境を整えているため、先進的な取組の町内会等を研究し、他の町内会等に情報提供しては？
・市民館や地域交流センターなど市民利用施設へのオンライン環境の整備により、防災・減災対策、地域活動活性化をはかるべき。

課題

・コロナ禍で町内会等の活動が縮小し、活動のあり方の課題が出ている。
・現在の支援制度では、町内会等へのオンライン活動支援が想定されていない。
・町内会・自治会の役員の後継者不足。

**先進的な取組の
町内会・自治会への支援について**

月本たくやプロフィール

昭和 53 年 大阪府豊中市生まれ。神奈川大学法学部法律学科卒業後、建築設備メーカーに就職。

川崎市長政務秘書、衆議院議員公設秘書(麻生区・国会担当)等を経て、平成 23 年より川崎市議会議員。

現在 川崎市議会議員(麻生区選出、無所属、当選 3 回) 健康福祉委員会委員

神奈川県カップ協会代表理事 NPO 法人防犯ネットワーク理事・麻生区支部長

神奈川大学川崎市宮陵会監事、三田学園同窓会東京支部幹事

川崎市麻生区男子ソフトボール連盟副会長 川崎白百合ライオンズクラブ 2017-2018 年度会長

五力田町内会地区長 麻生区白鳥在住 家族:妻(会社員) 趣味:KUBB(スウェーデン発祥のスポーツ)

月本たくや事務所

麻生区白鳥 2-3-2 Kコーポ白鳥 103

TEL 044(986)6010 FAX 044(330)1563

月本たくや

検索

